

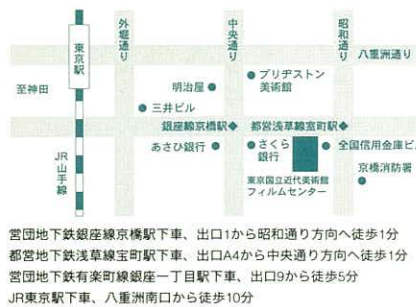
映画製作専門家養成講座(第1回)

— 日本映画の技と匠 —

応募要項



問い合わせ先
東京都中央区京橋 3-7-6
東京国立近代美術館フィルムセンター
映画製作専門家養成講座事務局
電話 03-3561-0823 (代表)



主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター

企画・助言
平成9年度映画製作専門家養成講座実行委員会
(品田雄吉、高村倉太郎、野上照代、堀越謙三、松本正道、宮澤誠一)

開催場所
東京都中央区京橋3-7-6
東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

講座分野
撮影、美術、編集、録音の4分野

講座内容
各分野の講座は、下記の連続する3日間(午前11時～午後6時)に行ない、受講者は講師が選択した映画を講師と共に鑑賞し、その後、質疑応答をまじえながら映画製作の技術などについて講義を受けます。

講座期間
撮影 平成 9年12月10日(水)～平成 9年12月12日(金)
美術 平成 9年12月17日(水)～平成 9年12月19日(金)
編集 平成10年 1月28日(水)～平成10年 1月30日(金)
録音 平成10年 2月 4日(水)～平成10年 2月 6日(金)

受講資格
受講の資格は、映像製作に関してその関係技術職能の一分野に専門的な知識、若しくは助手等、実際の現場経験を有する方とします。
なお、日本映像職能連合(監督、撮影、照明、録音、美術、編集、スクリプター)及び日本映画テレビ技術協会などのメンバーの方を含みます。

募集人数
各分野40名
採択の通知を受けとった受講者は複数の分野も受講できますが、応募は一分野のみの選択となります。

応募方法
応募用紙に氏名等必要な事項を記入の上、切り離して封筒を作成し郵送して下さい。
送付先/〒104 東京都中央区京橋3-7-6
東京国立近代美術館フィルムセンター内
映画製作専門家養成講座事務局

募集期限
平成9年11月14日(金)までに必着
なお、書類選考の上、応募用紙に添付された所定のはがきにて可否の通知をいたします。

受講料
受講料金は無料です。
ただし、受講料金以外の交通費や食費、宿泊費などは受講生の負担となります。

修了証
受講終了者には分野ごとの全講座出席をもって、各々の修了証を発行いたします。

※上記内容については予告なく一部変更することがあります。あらかじめご了承ください。

応募要項

講座分野：撮影/美術/編集/録音

第1回

平成9年度

映画製作専門家養成講座

— 日本映画の技と匠 —



主催 東京国立近代美術館 フィルムセンター

はじめに

映画館を主たる販路とする古典的な意味での日本映画産業は、1960年代以降、長期にわたり停滞あるいは低迷の傾向にあります。が、作品総体としての日本映画が今世紀の世界にわが国が誇るべき芸術の一つであることに異論はないでしょう。さまざまな困難にもかかわらず、若い世代の映画作りへの情熱はいささかも衰えを見せていないばかりか、むしろ世界の映画シーンで高い評価を得ている近年の諸作は、日本映画の新たなルネッサンスを予感させるものとさえいい得るでしょう。

一方、日本映画を支えてきた優れた「現場の技術」は、映画産業の縮小や非フィルム映像産業の拡大にともなって、現在、「過去の技術」になろうとしているという声も聞かれます。わが国唯一の国立映

画研究機関である東京国立近代美術館フィルムセンターは、映画（フィルム）を取り巻くこうした技と匠がわが国のユニークな技術的文化遺産であるとの視点から、それを次世代に継承し、将来の映画人を育成すること、並びに映画芸術の発展に資することを目的として、平成9年度より「映画製作専門家養成講座」を開講することとなりました。「日本映画の技と匠」を、師匠から弟子へ、先輩から後輩へ、ベテランから新人へ伝えようとするこの講座が、日本映画の良き伝統を守る一助となり、また、映画映像製作に携わる方々の交流の場となることを願っております。

東京国立近代美術館フィルムセンター

講師予定者

岡崎宏三(おかざき・こうそう)

1919年生れ。'36年、新興キネマ大泉撮影所に入社。'40年「愛の記念日」(伊奈精一監督)でカメラマンに昇進する。新興キネマを吸収した大映を'44年に退社後、ニュース映画や記録映画の撮影、宝塚映画、東京映画、東宝映画との専属契約を経て'75年にフリーとなる。これまでに140本を越す劇映画を撮影、豊田四郎、川島雄三等の監督作品に加え、「アナタハン」(1953年)や「ザ・ヤクザ」(1974年)など海外作品への参加でも知られている。ブルーリボン賞、日本アカデミー賞優秀撮影賞などを受賞。



原一民(はら・かずたみ)

1931年生れ。'53年、東宝砧撮影所入社。'69年の「死ぬにはまだ早い」(西村潔監督)でカメラマンに昇格、以降、西村潔、山本迪夫、出目昌伸、今井正などの作品を手がけ、'83年以降フリーとなる。「豹は走った」(西村潔監督、1970年)、「幽霊屋敷の恐怖 血を吸う人形」(山本迪夫監督、1970年)、「忍ぶ糸」(出目昌伸監督、1973年)、「動脈列島」(増村保造監督、1975年)、「あにいうと」(今井正監督、1976年)、「きけ、わだつみの声」(出目昌伸監督、1995年)などを撮影。三浦賞、日本アカデミー賞撮影賞などを受賞。



美術

木村威夫(きむら・たいお)

1918年生れ。'41年、日活多摩川撮影所入社。日活を吸収した大映で'44年の「海の呼ぶ聲」(伊賀山正徳監督)が第一作となる。'54年、製作を再開した日活に移籍、鈴木清順作品をはじめ、'72年に独立するまでに122本に及ぶ日活作品を手がける。'72年にフリーとなって以後は熊井啓監督作品の他、多く若手監督の作品をもサポートしている。代表作には「或る女」(豊田四郎監督、1954年)、「関東無宿」(鈴木清順監督、1963年)、「忍ぶ川」(熊井啓監督、1972年)など。毎日映画コンクール美術賞、日本アカデミー賞最優秀美術賞などを受賞。



村木与四郎(むらき・よしろう)

1924年生れ。'46年、東宝入社。'54年に「魔子恐るべし」(鈴木英夫監督)の美術を担当する(北猛夫と共同)。「生きものの記録」(1955年)以降「まあだだよ」(1993年)にいたる黒澤明のほとんどの作品の他、杉江敏男、森谷司郎らの監督作品で美術を担当する。代表作に「蜘蛛巣城」(黒澤明監督、1957年)、「大学のお姐ちゃん」(杉江敏男監督、1959年)、「天国と地獄」(黒澤明監督、1963年)、「海峡」(森谷司郎監督、1982年)など。毎日映画コンクール美術賞、日本アカデミー賞最優秀美術賞などを受賞。



総合プロデューサー

野上照代(のがみ・てるよ)

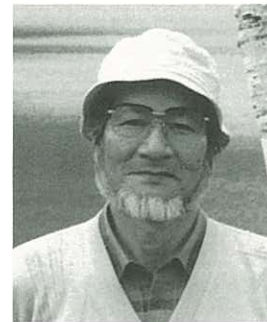
1927年生れ。'49年大映京都撮影所でスクリプター見習いとなり、'50年、「羅生門」に参加。「生きる」(1952年)以降「七人の侍」(1954年)、「隠し砦の三悪人」(1958年)など東宝時代の諸作品でスクリプターを担当したのをはじめ、最新作に至る黒澤明の全作品に参加。「影武者」(1980年)ではアシスタント・プロデューサー、「乱」(1985年)ではプロダクション・マネージャーを務めるなど、黒澤組に欠くことのできないスタッフとして活躍している。'84年、山路ふみ子賞・スタッフ賞を受賞。



編集

小川信夫(おがわ・のぶお)

1930年生れ。'53年、東宝砧撮影所入社。録音と整音を学んだ後、'63年に編集部に移籍、'67年の「ゴー! ゴー! 若大将」(岩内克己監督)が第一作となる。「若大将」シリーズや、「青春の門」(浦山桐郎監督、1975年)、「HOUSE ハウス」(大林宣彦監督、1977年)などを手がけ、'83年にフリーとなる。代表作には大林宣彦、小栗康平監督の諸作品の他、「駅 STATION」(降旗康男監督、1981年)、「四万十川」(恩地日出夫監督、1991年)など。「死の棘」(小栗康平監督、1990年)で日本アカデミー賞優秀編集賞を受賞。



長田千鶴子(おさだ・ちづこ)

1942年生れ。'68年大映テレビ室で編集助手となる。'73年、市川崑監督のTV作品「追跡」で編集者となり、'75年の「吾輩は猫である」(市川崑監督)以降、「犬神家の一族」(1976年)、「細雪」(1983年)など主に市川組の編集者として活躍する。市川作品「映画女優」(1987年)、「八つ墓村」(1996年)に加えて「少年時代」(篠田正浩監督、1990年)、「ゴジラVSデストロイア」(大河原孝夫監督、1995年)でも日本アカデミー賞優秀編集賞、また「四十七人の刺客」(市川崑監督、1994年)で同最優秀編集賞を受賞。



録音

橋本文雄(はしもと・ふみお)

1928年生れ。'46年、大映京都撮影所入社。'54年に製作を再開した日活に移り「生きとし生けるもの」(西河克己監督、1955年)で録音技師に昇格。以後、川島雄三、中平康、今村昌平から曽根中生に至る多数の日活作品、また独立した'82年以降も、澤井信一郎や森田芳光ら若い世代の作家の作品で録音に携わり、「幕末太陽伝」(川島雄三監督、1957年)や「光る海」(中平康監督、1963年)、「トカレフ」(阪本順治監督、1994年)など、これまでに手がけた劇映画は260本に及ぶ。毎日映画コンクール録音賞、日本アカデミー賞最優秀録音賞、増谷賞などを受賞。



紅谷愼一(べにたに・けんいち)

1931年生れ。'49年大映京都撮影所入社。'54年に日活撮影所に入社し、'65年の「三匹の野良犬」(牛原陽一監督)で一本立ちとなる。以降、今村昌平、蔵原惟繕、藤田敏八などの諸作品で録音を担当。'80年フリーとなる。代表作に「神々の深き欲望」(今村昌平監督、1968年)、「南極物語」(蔵原惟繕監督、1983年)、「うなぎ」(今村昌平監督、1996年)など。「夢」(1990年)でM.P.S.E./GOLDEN REEL賞(米)の他、毎日映画コンクール録音賞、日本アカデミー賞最優秀録音賞などを受賞している。

